

ネットワーク著作権

快適なネットライフを実現するために
ネットワークの著作権について考えていきましょう。

コンピュータネットワークが特別なものではなく、一般家庭にまで広く浸透している現在、インターネット上では様々なデータが当たり前のようやりとりされています。

インターネットを介してのデータのやり取りは、郵便や電話、FAXなどといった従来の手段に比べて非常に手軽かつ簡便で、ごく気軽にやりとりされるようになりました。

その一方で、データの著作権が今とても問題になっています。アプリケーションソフト、画像、音楽、動画など電子化されたデータにも著作権はもちろん存在します。しかし、データ交換の手段が簡便になった分、そうとは意識せずに著作権を侵害しているケースが増えています。

自作のWebサイトを持つ時の注意

特に、自分のWebサイトを立ち上げている方は注意が必要です。インターネットで入手した画像ファイルなどを勝手に流用すると、著作権侵害に当たるケースがあります。Webブラウザで表示可能な画像等は、基本的に全て手元のパソコンに保存することができますが、これは著作権を放棄していることにはなりません。従ってそれを再配布したりすると、問題を起す恐れがあります。「フリー素材」など流用が可能であることを明記してあるもの以外は、著作者に了解を得た上でしか使用してはいけません。

リンクする時の注意

また、他人のページにリンクを張る場合も注意が必要です。いわゆる「無断リンク」は著作権法的には侵害に当たらないとする解釈もありますが、それでも作者のページ構成を無視して、トップページ以外に直接リンクを張ったりすることは、マナーとしてはよくありません。「リンクフリー」(“link free”の本来の意味は「リンク禁止」なの

ですが、日本では逆の意味で使われることが多いようです)と銘打ってあるページ以外は、作者の承諾を得るのが原則です。

ファイル交換ソフトの問題

ネットワーク上での著作権を考えると、必ず問題になるのが「ファイル交換ソフト」です。これは、ユーザー同士が互いのファイルを交換し合うためのソフトウェアで、求めるデータに関連するキーワードを使って、そのデータを持っているユーザーをインターネット上で検索し、自分の持っているデータと交換に目的のデータを貰うという使い方をします。このソフトウェアは、まともな使い方をすれば大変便利で有益なものです。残念ながら実際にやりとりされるデータには、著作権の侵害に当たるものが数多く含まれているのが現状です。

金沢大学では固く禁止

金沢大学では、このようなファイル交換ソフトの学内での使用は固く禁止しています。学内のネットワークは学術目的の使用

を原則としており、それ以外の目的で通信帯域を占有する使い方は認められないことと、著作権侵害にあたるケースを判別することができないことが、その理由です。実際、他大学ではソフトウェアメーカーや日本音楽著作権協会(JASRAC)からの告発を受けたケースもありますし、2003年11月には日本レコード協会(RIAJ)が日本全国の大学に、音楽の不正利用対策を正式に要請しています。現代において著作権問題は建前ではなく、差し迫った問題なのです。

(文・情報基盤部門 井町)

関連サイトへGO!

金沢大学総合メディア基盤センター
<http://www.gipc.kanazawa-u.ac.jp/>

社団法人 日本音楽著作権協会
<http://www.jasrac.or.jp/>

社団法人 日本レコード協会
<http://www.riaj.or.jp/>

